

## 中山間地域における交通困難集落の実態を踏まえた世帯間送迎サービスの検討

主査 藤原章正(広島大学大学院教授)

中山間地域では公共交通サービスの水準が低く、また生活利便施設が居住地から遠い場合が多い。そこで住民は世帯構成員による送迎を利用して外出活動を行ってきた。送迎は私的交通であり、これまで、コミュニティの外出交通手段としての位置けられていない。しかし一定規模の人口を有する地区で送迎者がある程度確保できる場合は、地区全体では相当な送迎が発生しており、外出交通手段として活用できると思われる。

本研究では、中国地方の中山間地域集落を対象として外出活動の困難さの程度を把握すると共に、送迎活動に着目した分析と提案を行う。具体的には、過去の人口減少推移を踏まえた交通困難集落の現状を GIS を用いて把握する(研究Ⅰ)。さらに、世帯内送迎サービスの世帯間への拡張可能性の評価について検討する(研究Ⅱ)。

研究Ⅰについては、広島県を中心とする中山間地域集落の交通アクセス性、および生活利便施設の立地状況を GIS によって明らかにすると共に、外出困難な高齢者の将来的な増加と小売施設立地の集約化傾向について検討を行った。その結果、多くの集落で高齢化と人口減少が並行して進行しており、送迎の担い手を世帯内に限定することは難しいことが明らかとなった。

研究Ⅱについては、送迎タイミングと頻度が、送迎者に過度の負担をかけないような、被送迎者、送迎者の組み合わせを明らかにするため、双方のアクティビティダイアリー情報を取得し、両者のスケジュールの調整とマッチングについて検討を行った。その結果、世帯内送迎よりも世帯間送迎の方が、スケジュール調整が容易な場合があることが明らかとなった。